

28PA-pm258

薬学生を対象としたメンタルヘルスファーストエイド教育の導入とその評価
○齋藤 百枝美¹, 村上 勲¹, 中村 英里¹, 安藤 崇仁¹, 土屋 雅勇¹, 栗原 順一¹ (1帝京大薬)

【目的】本邦の年間自殺者数は現在 3 万人を下回り減少傾向にあるが先進諸国の
中では依然高い水準で推移している。原因動機別では健康問題が最も多く、患者
と関わる薬剤師に自殺予防ゲートキーパー (GK) としての役割が求められている。
このため、薬学部教育に GK 養成講座としてメンタルヘルスファーストエイド
(MHFA) を導入しその評価を行った。MHFA は精神疾患を発症しつつある人やメン
タルヘルスの危機的状況にある人をどのように支援すればよいかを学ぶためのエビ
デンスに基づき開発されたプログラムである。【方法】薬学部 4 年生を対象として、
統合失調症、うつ病、双極性障害について 2 コマの講義を実施後に GK 養成講座と
して MHFA を実施した。事前事後にアンケート調査を実施した。統計処理は対応の
ある t 検定、自由記述は KHcoder を用いた。【結果・考察】回答者数は男性 102 名、
女性 149 名で回収率 100% であった。GK については 89.6% が知らないと回答した。
精神的な問題を抱えている人とコミュニケーションをとることについては事前
 1.9 ± 0.8 から事後 2.6 ± 1.0 と有意に上昇した ($p = 0.000$)。また、薬剤師が自殺
予防に関わることへの自己効力感は事前 3.0 ± 0.5 から事後 3.6 ± 0.5 と有意に高
くなった ($p = 0.000$)。GK 養成講座が役に立つかは 93.6% が「役に立つ」「やや
役に立つ」と回答した。KHcoder の共起ネットワークでは、薬剤師が自殺予防に関
わることについて事前は「思う」と「患者」をそれぞれ中心としたネットワーク
であったが、事後は「患者」「思う」「聞く」「話」「薬剤師」「自殺」を中心とした
大きなネットワークが作られた。MHFA は対応についての悪い例、良い例を DVD で
視聴し、ロールプレイにより実践的に学ぶことができるため、学習効果が大きく
有用であると考えられる。